

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686  
研究種目：基盤研究(C)（一般）  
研究期間：2018～2022  
課題番号：18K00462  
研究課題名（和文）実存主義の惑星的展開----ジャン＝ポール・サルトルと第三世界

研究課題名（英文）Jean-Paul Sartre et le tiers monde

研究代表者  
澤田 直之（澤田直）（Sawada, Naoyuki (Nao)）  
立教大学・文学部・教授

研究者番号：90275660  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：サルトルと第三世界との関係を明らかにするという目的に沿って、主として以下の研究を行った。

- (1) キューバ革命およびアルジェリア戦争に対するサルトルの具体的な介入を詳細に跡づけるとともに、これらの歴史的出来事との接触がサルトル思想に与えた影響を示した。
- (2) サルトルの主宰する雑誌『レ・タン・モデルヌ』が、フランスのみならず世界へと向けて情報を発信し、フランス国内外の世論形成に寄与したことを明らかにした。また、そのなかには、日本への知識人たちへの影響も含まれていることを、具体的な例をもって示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

サルトルの実存主義が、単なる思想のレベルに留まらず、彼が主宰した雑誌『レ・タン・モデルヌ』の活動を通して、アルジェリア独立戦争や革命後のキューバの状況を世界に発信し、世界の世論の形成に寄与したこと、そのなかには日本も含まれていたことを明らかにしたこと。第三世界の国々への訪問や、そこでの知識人たちとの交流が、実存主義思想が思弁的なものからより広く社会的なものへと展開していく過程で、大きな影響を与えたことを論証したこと。以上2点が本研究の有する学術的意義である。以上の成果は、文学・思想と社会の関係を明らかにする側面をもち、その意味で学術的意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：In the purpose of clarifying Sartre's relationship with the Third World, the following studies were mainly carried out.

- (1) Traced in detail Sartre's specific interventions in the Cuban Revolution and the Algerian War, and showed the impact of contact with these historical events on Sartre's thought.
- (2) We showed that the magazine "Les Temps Moderne", which Sartre presided over, transmitted information not only to France but also to the rest of the world, and contributed to shaping public opinion in France and abroad. We showed also shown, with concrete examples, Sartre's influence on Japanese intellectuals.

研究分野：フランス文学・思想

キーワード：ジャン＝ポール・サルトル 第三世界 キューバ革命 アルジェリア戦争 レ・タン・モデルヌ 加藤周一 フランツ・ファノン

## 1. 研究開始当初の背景

ジャン＝ポール・サルトル(1905-1980)を中心に、第二次世界大戦後に世界的に展開した実存主義は、ヨーロッパや北米、日本といった地域に拡散しただけでなく、いわゆる第三世界にも大きな影響を与えた。このことはよく知られているが、その一方で、サルトル自身が第三世界との関わりの中で自らの思想を深化させていった点には、これまであまり関心が向けられなかった。しかし、後期サルトルの中心的な争点のひとつである抑圧の問題は、いわゆる階級闘争だけでなく、南北問題、植民地主義が重要な枠組みになっており、それは、彼が精力的に訪れた世界中の国の知識人や民衆との直接・間接のコンタクトによって培われてきたと思われる。とりわけ、1950年代終わりのアルジェリア独立戦争とキューバ革命との関わりは、サルトル本人にとっても、またアルジェリア、キューバにとっても重要であった。じっさい、サルトルはフランツ・ファノンをはじめアルジェリア戦争に関わった多くの知識人との生身の交流があり、ファノンの『地に呪われた者』(1956)への序文やアルベール・メンミの『被植民地者の肖像』への序文の執筆は、生身の交流に裏打ちされることで説得力を増しているからである。同じことはキューバ革命に関しても言えることであり、サルトルの三度のキューバ訪問と、カストロやゲバラとの濃密な交流の実態を検討することなしには、サルトルのキューバ論の意義を理解することは難しいからである。

以上のような問題意識から、サルトルのアルジェリア戦争およびキューバ革命との関係を文献と具体的な交流の事実を照らし合わせることで明らかにし、その交流を文化史・思想的視座も交えて考察することが必要であると思われた。

## 2. 研究の目的

(1)サルトルの著作および実践行動が第三世界、とりわけその知識人に与えた影響を、最も緊密な交流が見られた、北アフリカのアルジェリアと中南米のキューバを中心に明らかにすること。

(2)第三世界を訪問したことが、サルトルの実存主義が現象学的風土から飛躍し、より社会的な関心へと展開する契機となったことを、具体的な交流と著作両面から明らかにすること。その際に現地の反応などについても併せて考察すること。

(3)サルトルの第三世界に関する著作や実践活動が、日本と日本の知識人に与えた影響を資料にあたって検証すること。その際に、サルトルの研究者や翻訳者はもとより、より広い知識人層への影響を概観すること。

## 3. 研究の方法

(1)ネグリチュードやフランツ・ファノン、植民地体制に関するサルトルの理論的なテキストと同時に、キューバ紀行などのジャーナリスティックなテキスト、さらにはアルジェリア戦争に関する政治的なテキストを同時に読解することで、サルトルと第三世界の関係を概観する。

(2)サルトルの第三世界に関した行動や発言に関する新聞や雑誌の記事を調査することで、外部から、サルトルと第三世界の関係を位置づける。

(3)サルトルの主宰した雑誌『レ・タン・モデルヌ』の活動を検証することによって、サルトルと第三世界の関係を側面的に検証する。

(4)日本の新聞・雑誌に見られる、サルトルの著作の翻訳のみならず、その活動の紹介について調査することによって、サルトルの第三世界との関係が日本の知識人や世論に与えた影響を検証する。

## 4. 研究成果

### (1)サルトルとキューバ革命の関係

サルトルのカリブ海への関心は、1949年の夏のヴァカンスを、当時の恋人ドロレース・ヴァネッティに誘われてメキシコ、グアテマラ、パナマ、キュラソ、ハイチ、キューバを訪問したときに遡ることを確認したうえで、1959年に起こったキューバ革命とその翌年のサルトルのキューバとブラジル訪問に関する資料を精査し、キューバとの関係を明らかにした。カストロやチェ・ゲバラとの直接交流の描写を含むキューバ滞在後のルポルタージュ『砂糖の上の嵐』は、単行本化されることがなく、邦訳もないが、その精読をとおして、サルトルとキューバ革命の関係を、同時代に発表された『弁証法的理性批判』も視野に入れて考察した。バルガス・リョサをはじめ南米の作家への実存主義への影響は以前から挙げられていたが、具体的な交流関係についてはまとまった研究がなかった。当時の新聞や雑誌などにあたって総合的な調査を行うことで、フランスと南米の知識人の交流を明らかにするとともに、日本への影響も確認した。また、第三世界全般への関心が、サルトルの問題意識のなかではユダヤ人問題、黒人問題と緊密に連携していることも跡づけた。(「サルトルと第三世界(1)」)

## (2) サルトルとアルジェリア戦争の関係

アルジェリア戦争に焦点を当て、サルトルの発言のみならず、サルトルやボーヴォワールが実際に介入した事例などについて精査した。アルジェリア戦争に関するサルトルの発言は、サルトル自身の主宰する『現代』誌を中心にしながらも、『フランス・オブセルヴァトゥール』『ル・モンド』『エスプリ』『エクスプレス』といった左派の新聞や雑誌への寄稿など、多様であったことに着目し、その実践的な立ち位置を明らかにした。その一方で『レ・タン・モデルヌ』の果たした役割は、サルトル本人の記事以上に、マルセル・ペジユ、ダニエル・ゲランなど若き協力者たちの熱意が大きかったことも解明した。また、アルジェリア戦争への不服従を支援したジャンソン機関などについても広範囲に文献調査を行うことで、サルトルと『レ・タン・モデルヌ』がアルジェリア戦争で果たした具体的な役割を解明した。また、実存主義とは距離を置く同時代の知識人たち(ディオニス・マスコロ、ロベール・アンテルム、マルグリット・デュラス、エドガー・モラン)らとの共闘の実態や、彼らの著作活動と実践が植民地問題に対する世論の形成に大きく寄与したことも検証した。(「サルトルと第三世界(2)」)

## (3) サルトルの第三世界への介入の日本への影響

サルトルの活動や著作は、加藤周一、竹内芳郎、鈴木道彦、海老坂武らサルトル研究に携わった知識人に大きな影響を与えたが、それに留まらず、雑誌『世界』をはじめ、リアルタイムでサルトルの発言が日本でも報じられることで、日本の世論にも大きな影響を与えたことを明らかにした。この点をとりわけ加藤周一、竹内芳郎を例に精査し、日本およびフランスでその成果を公表した。(「加藤周一を21世紀に引き継ぐために 加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム講演録」(「文学とは何か—加藤周一、サルトル、そして 独自の普遍 —」)、Le néo-japonisme au miroir de la French Theory : Kato Shuichi et Roland Barthes、「竹内芳郎著作集第1巻」書評)

## (4) サルトルの全般的な著作や活動についての研究

第三世界とは直接関わらないサルトルの活動と著作に関しても幅広く研究し、本課題の問題を側面から補強した。

「挫折」のテーマが初期から晩年に至るまでのライトモチーフとなっていることを明確にした。

(「L'obsession de l'échec chez Sartre」)

フローベール、プーセント、プルトン、パタイユ、デリダとサルトルの関係について検討した。(『サルトルのプリズム 二十世紀フランス文学・思想論』)

サルトルと68年5月の関係を精査し、階級闘争とは異なる革命のあり方をサルトルが視野に入れていたことを明らかにした。(「集団、主体性、共同体をめぐる 68年と現代フランス思想」)

サルトルの映像論についても検討し、初期の重要な論考である『イマジネール』の新訳を共訳の形で刊行するとともに、サルトルから始まるフランス哲学のイメージ論についても検討し、マリ＝ジョゼ・モンザン『イメージは人を殺すのか』の翻訳も共同で刊行した。

サルトルの晩年の重要な著作『家の馬鹿息子 5』の翻訳を共同で刊行するとともに、そこで扱われている第二帝政下における作家のアンガジュマンについてサルトルが行った分析を文学社会学の先駆けという観点から論じた。(「想像力の子供が読む神経症としての文学」)

## (5) フランス(語圏)の作家や思想家についての研究

サルトルから間接的な影響を受けたと思われる植民地出身の作家や、サルトルとは敵対的な立場にあった作家のたちの作品に現れる他者との関係について多角的な検討を行った。

アブデルケビル・ハティビと谷崎潤一郎について考察した。(「Maghrebian Shadow : Abdelkébir Khatibi and Japanese Culture」)

エドワール・グリッサンにおけるカリブ海的なバロックについて考察した。(「バロックの渦としてのカリブ的思考」、「La pensée baroque chez Edouard Glissant, ou l'esthétique antillaise」)

マルグリット・デュラスにおける命名の問題を考察した。(「どのように呼びかける(呼ぶ)のか—マルグリット・デュラスにおける名前の力」、「Comment (s') appeler ? : la force du nom chez Marguerite Duras」、「Revenir sur ses pas : reprise chez Marguerite Duras」)

ジョルジュ・パタイユ、ジャック・デリダ、エマニュエル・レヴィナスにおける贈与の問題を出発点として、贈与がはらむ他者との関係について考察した。(「生を与える : 家族と共同体」)

パンデミック状況を預言するかのような、フィリップ・フォレストの小説『洪水』の翻訳を共同で刊行した。

エドガール・モランが自らの出自、生涯、思想について語った自伝的回想『百歳の哲学者が語る人生のこと』の翻訳を刊行した。

小説家ミシェル・ウエルベックが哲学者ショーペンハウアーの自らへの影響を語った『シヨ

ーペンハウアーとともに』の翻訳を刊行した。

(6) 翻訳に関する考察

翻訳が孕む異文化との緊張関係と協同について考察する国際シンポジウムを共同で主宰し、その成果を日本とフランスで共編著の形で刊行した。(『翻訳家たちの挑戦：日仏交流から世界文学へ』、*Pour une autre littérature mondiale : La traduction franco-japonaise en perspective*)

(7) フェルナンド・ペソアの評伝

非西洋的世界の世界観にも通じる、西洋の近代的自我の解体を文学的に実践したフェルナンド・ペソアの生涯と著作に関して、連載の形で考察を行った。(「フェルナンド・ペソア：異名者たちの迷路」(1～12))

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44-5
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア：異名者たちの迷路(第9回)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 322-343
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44-6
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア：異名者たちの迷路(第10回)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 364-384
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44-8
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア：異名者たちの迷路(第11回)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 364-385
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44-9
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア：異名者たちの迷路(第12・最終回)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる	6. 最初と最後の頁 140-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nao Sawada	4. 巻 XVI
2. 論文標題 L'obsession de l'ehec chez Sartre	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studi Sartriani	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 52
2. 論文標題 サルトルとユダヤ的なもの (1) アンドレ・ゴルツ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教大学フランス文学	6. 最初と最後の頁 33-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 43 (8)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 すばる (集英社)	6. 最初と最後の頁 134-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 43 (9)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 (2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 すばる (集英社)	6. 最初と最後の頁 258-277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 43 (10)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 ( 3 )	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 すばる ( 集英社 )	6. 最初と最後の頁 276-293
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 43 (11)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 ( 4 )	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 すばる ( 集英社 )	6. 最初と最後の頁 350-368
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 1172
2. 論文標題 「われわれ」とは誰か? : ジャン=リュック・ナンシーと私たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想 ( 岩波書店 )	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 43 (12)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 ( 5 )	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 すばる ( 集英社 )	6. 最初と最後の頁 294-317
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44 (1)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 ( 6 )	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる ( 集英社 )	6. 最初と最後の頁 286-306
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44 (2)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 ( 7 )	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる ( 集英社 )	6. 最初と最後の頁 280-304
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 51
2. 論文標題 サルトルと第三世界 ( 2 )	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学フランス文学	6. 最初と最後の頁 43-69
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 44 (3)
2. 論文標題 フェルナンド・ベソア : 異名者たちの迷路 ( 8 )	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 すばる ( 集英社 )	6. 最初と最後の頁 286-305
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 澤田直, 菅谷憲興	4. 巻 3430
2. 論文標題 想像力の子供が読む神経症としての文学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 1-2, 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 3421
2. 論文標題 哲学とは研究対象であるまえに、生きた思想である (『竹内芳郎著作集第1巻』書評)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 50
2. 論文標題 サルトルと第三世界 (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『立教大学フランス文学』	6. 最初と最後の頁 33-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nao Sawada	4. 巻 -
2. 論文標題 L'ombre magrebine, Abdelkebir Khatibi et la culture japonaise	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Abdelkebir Khatibi, Quels heritages ?, Actes du colloque international, Academie du royaume du Maroc	6. 最初と最後の頁 117-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 25
2. 論文標題 水野浩二『倫理と歴史：一九六〇年代のサルトルの倫理学』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日仏哲学思想研究』	6. 最初と最後の頁 256-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 45巻6号
2. 論文標題 「サルトルのイメージ論 『イマジネール』の新訳刊行にあたって」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『本』（講談社）	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nao Sawada	4. 巻 50
2. 論文標題 Comment (s') appeler ? : la force du nom chez Marguerite Duras	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Annals of the Institute for research in Humanities, Kyoto University, ZINBUN	6. 最初と最後の頁 138-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 24
2. 論文標題 集団、主体性、共同体をめぐる 「68年と現代フランス思想」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日仏哲学思想	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田直	4. 巻 48
2. 論文標題 サルトルとイタリア(3)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立教大学フランス文学』	6. 最初と最後の頁 99-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件(うち招待講演 17件/うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 Le neo-japonisme au miroir de la French Theory : Kato Shuichi et Roland Barthes
3. 学会等名 Le neo-japonisme, 1945-1975 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 L'ecologie et l'existence : l'heritage phenomenologique chez Andre Gorz
3. 学会等名 evinas et Merleau-Ponty : le corps et le monde (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 サルトルにおける挫折をめぐって
3. 学会等名 日本サルトル学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 ブルーストに触発される哲学 イメージと知覚の現象学
3. 学会等名 日仏哲学会2022年秋期大会シンポジウム「マルセル・ブルーストと哲学(者たち) 没後 100 年を記念して」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 ゴンクール賞日本 その誕生から第1回受賞作の選考まで
3. 学会等名 『日本の学生が選ぶゴンクール賞 第1回を開催して 報告と検証』ゴンクール賞日本委員会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 ナンシーにおけるsingulier plurielについて なぜ複数の…があるのか、ひとつではなく
3. 学会等名 『ジャン＝リュック・ナンシーの哲学 共同性、意味、世界』(日仏哲学会)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 文学賞を通して考えるフランス語圏文学：マリー・ンディアイのケースを中心に
3. 学会等名 数の世界文学に向けて：フランス語圏文学の遺産と未来
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 Coller a l'histoire ou s'en ecarter: reflexions a partir des series fleuves historiques du Japon
3. 学会等名 Fiction et histoire: Roman du Genji et pratiques litteraires du passe et du present (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 ナンシーの自由をめぐって
3. 学会等名 脱構築研究会セミナー「ジャン＝リュック・ナンシーについて語る会」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 加藤周一における文学の善用
3. 学会等名 「『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』合評会」(立命館大学 加藤周一現代思想研究センター) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 フローベールとサルトル
3. 学会等名 19世紀フランス文学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 「生を与える：家族と共同体」
3. 学会等名 シンポジウム『共同体と贈与---ジョルジュ・パタイユの思想から』（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 「サルトルのイメージ論：想像界と現実界 その境界はあるのか」
3. 学会等名 日本サルトル学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 諏訪敦彦、クレモン・ロジェ、澤田 直、田坂博子
2. 発表標題 「映画と人 危機のなかの映画」
3. 学会等名 恵比寿映像祭シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 文学とは何か、加藤周一、サルトル、そして普遍的独自
3. 学会等名 国際シンポジウム 加藤周一（東京、日仏会館）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 開く、閉じる：差異について
3. 学会等名 日仏シンポジウム 世界文学の可能性、日仏翻訳の遠近法（於日仏会館）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 翻訳と可能性----詩と思想の交錯の場で
3. 学会等名 公開セミナー「詩を翻訳することの可能性 / 不可能性をめぐって」（於立教大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 Le baroque chez Edouard Glissant, ou l' esthetique antillaise
3. 学会等名 国際シンポジウムArchipels Glissant（於パリ第1大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 集団、主体性、共同体をめぐって
3. 学会等名 シンポジウム「68年と現代フランス思想」日仏哲学会、秋季研究大会（於明治大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田直
2. 発表標題 結節点としてのカフェ、ホテル、書店、出版社：エンリケ・ピラ＝マタス『パリに終わりはこない』を中心に
3. 学会等名 シンポジウム「パリの外国人」、第9回 世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会（於立命館大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 Revenir sur ses pas : reprise chez Marguerite Duras
3. 学会等名 国際マルグリット・デュラス学会（於立教大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 Comment (s') appeler, la force du nom chez Marguerite Duras
3. 学会等名 人文研アカデミー2018、シンポジウム「マルグリット・デュラス 声の幻前 小説・戯曲・映画」（於アンスティチュ・フランセ関西-京都）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nao Sawada
2. 発表標題 Khatibi et la culture japonaise
3. 学会等名 国際シンポジウム「Abdelkebir Khaitibi, quels heritages?」（於モロッコ王国アカデミー）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年



〔図書〕 計19件

1. 著者名 エドガール・モラン、澤田 直	4. 発行年 2022年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 216
3. 書名 百歳の哲学者が語る人生のこと	

1. 著者名 Francesco Ardolino, Lluisa Jlia (eds), Nao Sawada	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Publicacions de l'Abadia de Montserrat	5. 総ページ数 113
3. 書名 La Pagina es la pell, etudes sobre Felicia Fuster	

1. 著者名 マリ=ジョゼ・モンザン、澤田 直、黒木 秀房	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 146
3. 書名 イメージは殺すことができるか	

1. 著者名 ジャン ポール サルトル、鈴木 道彦、海老坂 武、澤田 直、黒川 学、坂井 由加里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 768
3. 書名 家の馬鹿息子 5	

1. 著者名 都甲 幸治 (著, 編集), 江南亜美子, 阿部公彦, 日吉信貴, 榎木伸明, 宮下遼, 山内功一郎, 松永美穂, 澤田直, 松下隆志, 久野量一, 中村和恵, 中村隆之, 榎木玲子, 柳原孝敦, 田尻芳樹, 北田信, 岡室美奈子, 江田孝臣, 平野啓一郎, 坂本葵, 野谷文昭, 鈴木雅雄, 三神 弘子, 斎藤 寿葉, 萩埜 亮	4. 発行年 2021年
2. 出版社 立東舎	5. 総ページ数 256
3. 書名 ノーベル文学賞のすべて	

1. 著者名 Nao Sawada, Francois Noudelmann, Francise Simasotchi-Brones, Yann Toma, Dominique Berthe, Michael Dash, Rene Depestre, Souleymane Bachir Diagne, Edelyn Dorismond, Michael Ferrier, Mary Gallagher, Lise Gauvin, Satoshi Hirota, Samia Kassab Charfi, Dominique Labays, Eduardo Manet, Hiroshi Matsui, et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 PU Vincennes	5. 総ページ数 273
3. 書名 Archipels Glissant (La pensee baorique chez Edouard Glissant, ou l'esthetique antillaise)	

1. 著者名 Nao Sawada, Jane Hiddlston, Khalid Lyamlahy, Assia Belhabib, Jasmina Bolfek-Radovani, Dominique Combe, Rim Feriani, Charles Forsdick, Olivia C. Harrison, Debra Kelly, Lucy McNeece, Matt Reeck, Alison Rice, Andy Stafford, Edwige Tamalet Talbayev, Alfonso de Toro.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Liverpool University Press	5. 総ページ数 401
3. 書名 Abdelkebir Khatibi, Postcolonialism, Transnationalism and Culture in the Maghreb and Beyond ("Maghrebian Shadow : Abdelkebir Khatibi and Japanese Culture")	

1. 著者名 澤田直、三浦信孝、鷺巣力、樋口陽一、ピエール=フランソワ・スイリ、小熊英二、イルメラ・日地谷 = キルシュネライト、水村美苗、ソーニャ・アンツェン、クリストフ・サブレ、ジュリー・ブロック、山元一、三浦篤、片岡大右、海老坂武、西谷修、白井聡、ソーニャ・カトー、奈良勝司、孫歌、池澤夏樹、李成市、林慶澤、王中忱、小関素明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 456
3. 書名 『加藤周一を21世紀に引き継ぐために 加藤周一生誕百年記念国際シンポジウム講演録』(「文学とは何か 加藤周一、サルトル、そして 独自の普遍」)	

1. 著者名 フィリップ・フォレスト著、澤田直訳、小黒昌文訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 291
3. 書名 『洪水』	

1. 著者名 ジャン＝ポール・サルトル著、澤田直訳（解説）、水野浩二訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 463
3. 書名 『イメージール』	

1. 著者名 Nao Sawada, Cecile Sakai, Bernard Banoun, Anne Bayard-Sakai, Mathieu Capel, Corinne Quentin, Patrick de Vos, Atsushi Hiraoka, Toshiyuki Horie, Jacques Levy, Emmanuel Lozerand, Shiro Miyashita, Minae Mizumura, Yoshikazu Nakaji, Kan Nozaki, Dominique Palme, Yoko Tawada, Daniel Stuve, Kazuyoshi Yoshikawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Editions Picquier	5. 総ページ数 222
3. 書名 Pour une autre littérature mondiale : La traduction franco-japonaise en perspective ("Ouvrir, fermer, sur la difference entre traductions litteraires et philosophique"; "Postface")	

1. 著者名 澤田直	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 398
3. 書名 サルトルのプリズム 二十世紀フランス文学・思想論	

1. 著者名 澤田直、坂井セシル、ベルナルド・バヌン、多和田葉子、堀江敏幸、宮下志朗、ダニエル・ストリューブ、エマニュエル・ロズラン、アンヌ・バヤール=坂井、平岡敦、吉川一義、マチュー・カペル、ジャック・レヴィ、ドミニック・バルメ、中地義和、水村美苗、野崎欽	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 320
3. 書名 翻訳家たちの挑戦：日仏交流から世界文学へ（「翻訳という幸福の瞬間」「開く、閉じる---文学と哲学を翻訳する際の差異について」）	

1. 著者名 ミシェル・ウエルベック、アガト・ノヴァック=ルシュヴァリエ、澤田直	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 152
3. 書名 ショーペンハウアーとともに	

1. 著者名 森本淳生、ジル・フィリップ、澤田直、立木康介、関末玲、橋本知子、ジョエル・バジェス=バンドン	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 228
3. 書名 マルグリット・デュラス“声”の幻前 小説・映画・戯曲（「どのように呼びかける（呼ぶ）のか----マルグリット・デュラスにおける名前の力」）	

1. 著者名 立花英裕、澤田直、ロミュアルド・フォンクア、フランソワ・ヌーデルマン、福島亮、マニュエル・ノヴァ、ピュアタ・マレラ、中村隆之、今福竜太、星埜守之、塚本昌則、大辻都、中島淑恵、塚原史、谷昌親、クロード・化ヴァレロ、元木淳子、尾崎文太、渡邊未帆、工藤晋、西成彦、西谷修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 432
3. 書名 クレオール想像力：ネグリチュードから群島の思考へ（「バロックの渦としてのカリブ的思考」）	

1. 著者名 野崎歓編, 秋山伸子, 有田英也, 上杉誠, 岡元麻理恵, 笠間直穂子, 片木智年, 三枝大修, 澤田直, 志々見剛, 鈴木哲平, 鈴木雅生, 滝沢明子, 田口亜紀, 谷本道昭, 中条省平, 塚本昌則, 中野知律, 博多かおる, 平岡敦, 福田美雪, 堀江敏幸, 前之園望, 水野尚, 宮下志朗, 安田百合絵, 横山安由美, 吉村和明著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 『フランス文学を旅する60章』(第50章 サルトル 永遠の旅行者 束の間の港 ル・アーヴル、第54章 アルベール・カミュ 地中海に浸る幸福「結婚」)	

1. 著者名 福島清紀, 澤田直	4. 発行年 2018年
2. 出版社 工作舎	5. 総ページ数 392
3. 書名 『寛容とは何か 思想史的考察』(「福島清紀氏の思想研究[法政哲学会をめぐって]」)	

1. 著者名 牧野英二, 小野原 雅夫, 山本英輔, 齋藤元紀編, 澤田直, 黒崎政男, 鷗澤和彦, 森下直貴, 田島樹里奈, 相原博, 佐々木一也, 近堂秀, 伊藤直樹, 小山裕樹, 大森一三, 森村修著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 297
3. 書名 『哲学の変換と知の越境:伝統的思考法を問い直すための手引き』(境界線上のエリア---共同体と寛容をめぐって)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>澤田直「「存在の一義性」の変奏曲 山内志朗『ドゥルーズ 内在性の形而上学』を読む(書評)」『未来哲学』4号、2023年、361-267頁。</p> <p>澤田直「翻訳」日本文藝家協会編『文藝年鑑』2022(新潮社)2022年、58 - 60頁。</p> <p>澤田直「サルトルと黒人の問題」『サルトル「恭しき娼婦」(劇場プログラム)』2022年、6 - 7頁。</p> <p>澤田直「ノーベル文学賞受賞 アニー・エルノー」『東京新聞』2022年10月13日夕刊。</p> <p>澤田直「ミシェル・ウエルベック『セロトニン』(書評)」『図書新聞』3436号、2022年2月22日、1面。</p> <p>澤田直「勝者なきゲーム」『サルトル「墓場なき死者」(劇場プログラム)』有限会社オフィスコットーネ、2021年、6-7頁。</p> <p>澤田直「日本の学生が選ぶゴンクール賞：冒険への船出」『ふらんす』97(2)、2022年、17-19頁。</p> <p>澤田直「翻訳」日本文藝家協会編『文藝年鑑』2021(新潮社)2021年、56 - 58頁。</p> <p>澤田直「辻仁成『10年後の恋』(書評)」『青春と読書』(集英社)56巻2号、2021年7頁。</p> <p>澤田直「エリック・ヴェイユール『その日の予定(書評)』」『図書新聞』3469号、2020年10月31日、8面。</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------